

○長良川でもいつか必ず発生する「施設では守り切れない大洪水」から命を守るため、平成30年7月豪雨を題材に、避難のあり方を考えるシンポジウムを開催。  
 ○岐阜小学校の児童10名から先進的な防災教育の取組みとその成果を紹介。学識者、国・県・市、水防団による水害時の対応や心構えの説明と合わせて、小学生とその保護者など来場者約500人の水防災意識を啓発。



主催者あいさつ  
**自らの命は自らが守ることが大事。**  
 本シンポジウムを通して、**災害への意識が広がって欲しい。**

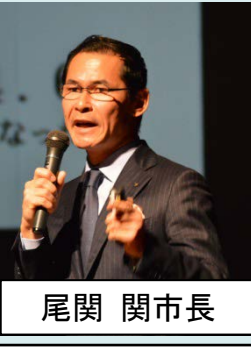


豪雨の概要説明  
 平成30年7月豪雨は、長良川が決壊した昭和51年9月の水害に酷似。一方、市内は雨が少なく、どれだけの人が危機感を持ったか？

**開催概要**  
 ○日時：平成31年2月24日(日)  
 ○会場：じゅうろくプラザホール(JR岐阜駅前)  
 ○参加：約500人  
 ○主催：木曾川上流河川事務所、岐阜市  
 ○報道：岐阜新聞、中日新聞、朝日新聞、CCN(ケーブルテレビ)



「頻発する豪雨 災害と気候変動」  
 近年、全国各地で豪雨災害が頻発。  
 行政、政治、学識者、市民、**皆で責任を持って大きな災害に立ち向かうべき。**



「住民避難の大切さ」  
 関市の対応をふり返し、住民アンケートを実施。  
 住民は、**主体的な情報収集や早めの避難を。**  
 災害対策本部は、**迅速な避難情報発令を。**

パネルディスカッション  
「大雨、そのときわたしたちはどう行動すべきか」



防災教育の取り組み紹介  
 防災教育の授業を通じて、洪水時にすべきことを学び、**家族でも話しあった。**  
 7月豪雨の時も、情報収集や避難の仕方の確認など**自分から行動ができた。**  
 これからも防災に関心を持ち続けたい。

・過去の河川改修が効果を発揮。  
 ・水防団も活躍。しかし、団員の高齢化等の課題を抱える。  
 ・市の避難情報に注意してほしい。  
 ・中小河川の危機管理型水位計や水害危険情報図を活用してほしい。  
 ・防災教育を受けた子ども達の成長を実感。

ファシリテータ  
 辻本 哲郎 名大名誉教授  
 パネリスト(写真左から)  
 柴橋 正直 岐阜市長  
 堀 与志郎 木曾上所長  
 井上 清敬 県河川課長  
 篠田 龍祐 岐阜小教諭  
 戸本 敏夫 水防協会長

岐阜小学校 篠田教諭 6年生児童10名

# 「災害現場で働くクルマたち」を開催しました。

- 日 時：平成31年2月24日(日) 9:00~14:00
- 場 所：信長ゆめ広場(JR岐阜駅前)
- 主 催：木曾川上流河川事務所
- 協 力：岐阜市、岐阜市水防協会
- 参 加：約350人
- 内 容：災害対策車の展示・操作体験  
(排水ポンプ車, 照明車, 河川パトローカー,  
災害対策本部車)  
水防団による水防活動紹介  
かわ・ダムを知ろう! 模型&パネル展



河川パトローカーの乗車状況



排水ポンプ車の紹介



災害対策車の展示



信長ゆめ広場の全景



照明車の操作体験



照明車の操作体験



水防工法の展示



水防団による説明の様子